



## 読書が育てる

### まちの未来

読書は「考える力」「感じる力」「表す力」を育み、人生を豊かにするために大きな役割を果たすものです。土岐市では、読書活動を推進することで、まちの文化や未来を担う人材の育成、子育て世代の重要な関心事である教育の充実によりまちの魅力の向上を図り、「読書が育てるまちの未来」の実現を目指しています。

## 改革が進む

### 小中学校の読書環境

子どもたちが本に出会う機会で、義務教育の9年間を過ごす学校の図書室は重要な役割を担っています。そこで今、市は子どもたちの将来のために、小中学校の読書環境の充実を図っています。1つはGIGAスクール構想で整備された一人一台タブレットと「ときし電子図書館」との連携。これにより電子図書の貸出し冊数が大きく伸びました。もう1つが「学校司書支援員」の配置です。市内全ての小中学校に司書支援員を配置し、図書主任の先生と連携しながら、子どもたちと本との出会いをサポートしています。

「図書室が楽しい！」「読書が楽しい！」と感じてもらうため、どんな工夫をしているのか。今回の特集は、妻木小学校の図書室を紹介します。

☎ 読書活動推進室（内線361）



# 工夫02 いろいろなコーナーを用意



課題図書や新しい本のコーナーをチェックするのが楽しみ！



読書委員 波多野 旭さん



図書室に入ってすぐ目に飛び込むのは、今月のテーマのコーナーです。それぞれの月でその時期にあった内容を掲示します。今は、「こどもの本総選挙」の案内です。

その他にも、特集コーナー、新聞コーナーや時事問題などで旬な事柄に興味を持ってもらうためのコーナーなど、テーマごとにコーナーを分けています。



読書委員 池宮 心絆さん

子ども向けの新聞も置いてあるよ。漢字にふりがなが振ってあったり、子どもの関心が高い記事があったりして、今の出来事がわかるよ。



# 読書の木

子どもたちが本を読むことで、読書の木が実を付け豊かになります。子どもたちの成長が木の成長につながります。



みんなが読んだ本の紹介で読書の木が大きくなります。みんながすすめてくれると読みたくなります。支援員さんが作った飾りで楽しい気分になります。明るい図書室が大好きです。



読書委員 切島 佳愛さん

ワクワクしながら図書室に入ってきてくれるように、ポップや本の一部を抜き出して展示するなど、本を読みたくなる工夫をしています。

本の博物館をイメージしています



学校司書支援員 加知 恵子

# 工夫01

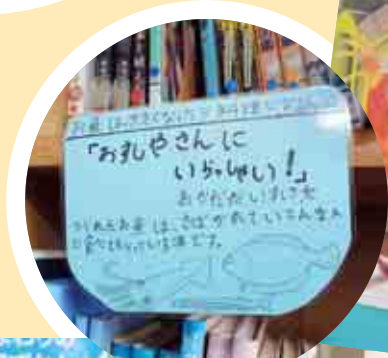
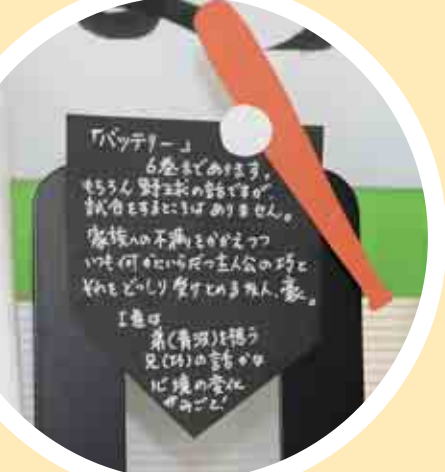
# 楽しい掲示で図書室を明るく





# 工夫 04

## 本の紹介を楽しくポップに



本との出会いを大切に、  
いつまでも「読書＝楽しい」  
イメージをもってほしい

いろいろな本に出会えるのは子どものうちだと思います。図書室をきっかけに、大人になっても、読書＝楽しいというイメージでいてくれるとうれしいです。



支援員さんが本の内容や種類などを楽しく教えてくれているよ。

友だちが書いたポップもあって、いろんな本が読みたくなっちゃう！



読書委員 田澤 壮祐さん

# 工夫 03

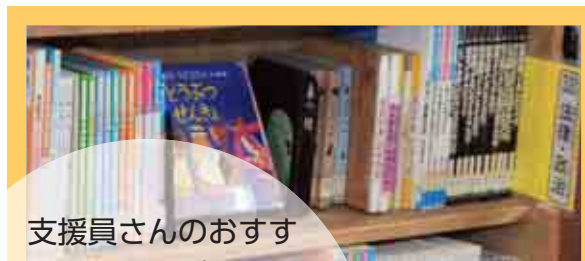
## 分類案内と本の陳列を見やすく

どこにどんな種類の本があるのか大きな番号で案内してあるから探しやすいよ。



読書委員 曾根 章斗さん

本の表紙が見えるような陳列



支援員さんのおすすめの本の表紙が見えるようにしてあったり、部屋の真ん中には授業の調べ学習に役立つ本が選んで置いてあったりするからうれしいな。

授業に関連する本の展示



読書委員 安藤 和奏さん

「学びの幅が広がっています」

授業の内容に興味を持ってもらうため、また、理解を深めるために支援員さんに相談して本の選択や展示の方法を考えてもらっています。支援員さんの工夫により、普段は目に留まらない本でも興味をもって読んでくれ、授業以上の知識を得たり、普段は読まない本に出会ったりすることができ、学びの幅が広がっています。



図書主任 小森 瑛玲香 教諭

登録番号で本の貸し出しを管理する学校図書館システムの導入で、どんな本が子どもたちに人気があるのか、授業とリンクさせるためにはどの本を選んだら良いかなどの分析ができ、本の掲示の参考になっています。また、登録番号を使い、ときし電子図書も利用することができ

